



風は海から

令和3年5月31日
令和3年度
横浜市立西富岡小学校
学校だより6月号 No.3

心をととのえる

横浜市立西富岡小学校
校長 黒田 由希子

ある朝、職員玄関の脇に、ピンクの可憐な花が咲いていることに気づきました。近寄ってみると、「金沢区の花 牡丹」という表示があり、見事な大輪の花を咲かせていました。牡丹が金沢区の花となった経緯を調べてみると、江戸時代に旧永島邸の庭園に咲いていた牡丹が「泥亀の牡丹」として人々に親しまれていたことに由来しているとのことでした。そういえば、金沢区のマスコットキャラクターも「ぼたんちゃん」ですね。西富岡小の牡丹は、子どもたちが日ごろ通らない場所に咲いていたので、この写真で美しさを届けられたらと思います。来年、またこの牡丹の花が咲く頃は、コロナが収束していることを願います。



新年度が始まり、2か月が経ちました。学習もだんだん本格的になってきて、教室では、友達の考えを真剣に聞いたり、お互いに意見を述べ合ったりする姿が見られます。私もそんな子どもたちの姿を見るのを楽しみに学校内を見回っていますが、そのときに気を付けて見る場所があります。それは、昇降口の靴箱です。経験上、靴や上履きのかかとかきちんとは揃えられているときは、子どもたちの心も落ち着いており、バラバラだったり、片方が床に落ちていたりするときは、教室や廊下が少しざわついてることが多いからです。西富岡小学校は、低学年からしっかりと揃って入っているのが立派だなと感じています。先日、朝会で子どもたちに「はきものをそろえる」という詩を紹介しました。それは長野県で住職をされていた藤本幸邦さんが作られた、履物が揃っていると、自然と心も揃うようになるという内容の詩です。藤本さんは、履物を脱ぐとき、かかとを揃えるという動作をほんの少し入れることで、心に余裕が生まれ、落ち着いた生活を送ることができるという説いています。きちんとかかとが揃って入っている靴箱は見ていても気持ちのよいものです。それは履物だけにとどまらず、学習している机上でも言えることではないでしょうか。きちんとかかとを揃え、姿勢を伸ばし、心を真っ直ぐにして学習に臨むと、集中力も高まってくる気がします。子どもたちには、これからも「揃える」という動作に気を付けて過ごしてほしいと思います。